

Monday

新しい依頼にワクワク!



開会中は色々な依頼が舞い込んでバタバタ!

電話:今から打合せに来て!
締切り間近のα法案の局長審査の準備を進めていたら、急にX議員事務所から電話。担当委員会で審議予定のβ法案について修正案の提出を考えているので、話を聞きに来てほしいという。A課長・補佐級のBさんと一緒にX議員事務所へ向かう。

課長:問題意識は何ですか?
X議員と打合せ。閣法をどう修正したいかを話す議員に、A課長は、何が問題か、修正により何をしたいのかと問いかける。
やりとりを追いかけるのに必死の私は、勢い余って冗談までメモ。X議員に「冗談まで書かなくてもいいよ」と笑われてしまった。

議員:新しいアイデアと当初案、それぞれの論点整理を!
話を進めるうちに、当初X議員が考えていたのは違うアイデアも見えてきた。表面的な方法論だけでなく、その背景にある問題意識を確認することが大切なんだと実感。

先輩:コツコツ慣れていくのが大事だよ😊
疑問点や今後の段取りを話しながら執務室に戻り、議事録を作成。確認してもらおうと、仮名遣いにもコメントをもらう。C先輩から、法律案を起草するのに向けて、普段から仮名遣いのルールに慣れておいてねとアドバイス。

先輩:この資料も参考になりそう!
「ここは調査が必要だね」と言われた部分を調べながら、課内会議で出た論点をまとめていく。C先輩から、どこにどんな情報があるか教えてもらい、書庫に行ったり、立法例を検索したり。

任期付弁護士Eさん:実務はこうなって…。
運用・実務面が分からず、先輩と頭を抱えていると、横で聞いていた任期付弁護士のEさんがカットイン。裁判実務がどうなっているのか詳しく教えてくれた。調べても分からなかったら、

周りの人に早めに相談すると見えてくるものもあるんだな。
補佐:法律が分からない人にも分かるようにね
C先輩に全体の構成を相談しつつまとめた論点メモを補佐にも見てもらう。
時間がない、そして、必ずしも法律に詳しいとは限らない議員の先生向けの資料だから、分かりやすくかみ砕いて書こうとアドバイスをもらう。C先輩と相談しながら、分かりにくい指摘されたところをもう1回書き直す。明日課長にも見てもらおうと!

新人職員の ある1週間

衆議院法制局に入局したら、どんな仕事をするんだろう?具体的な業務の進め方を追体験できるよう、新人職員の目線から法制局での「ある1週間」をご紹介します。

局長:審査はみんなで!
昨日審査の準備を進めていたα法案について、局長から、「今から審査をしましょう」と呼ばれる。これまでの資料や六法、立法例を調べるためにパソコンも持って、課員みんなで局長室に向かう。

局長:新人さんに説明してもらおうかな。
審査の中で、局長から「なぜ無効ではなく取消しの構成にしたの」と聞かれる。これまでの議論や大学で勉強した法律の知識を総動員して両者の違いを説明、納得いただいた。

補佐:この「、」はですね…
局長審査では、依頼の概要、法案全体の仕組みといったことから、条ごとの細かい言葉遣いまで、様々なことが議論になる。入った直後に研修はあったけど、審査で飛び交う法制執務の詳しい議論についていけず、知識不足を痛感。閉会したら、より実践的な内容の研修もあると聞き、しっかり勉強しないと。

課長:宿題返しは担当して
局長からたくさん宿題をもらって課に戻る。条文の修正と、必要な調査をしないと!補佐級のBさんが条文を直すなかで、局長からさらに調査するようにと言われた立法例を、研修員(※)のDさんと分担しながら調査。
直しと調査結果を報告して、無事審査に!

※法制局では各自治体からの研修員、任期付弁護士、省庁・裁判所からの出向者たちと机を並べて一緒に業務に当たっている。

Wednesday



新人の視点を大事に!

補佐:“私”さんはどう思う?
X議員から月曜日に依頼のあった修正案の論点について課内で議論。思ったことは何でも言おうの精神で、積極的に発言。課長から、「色んな視点が大事だから、どんどん言って」と言ってもらい、素人質問もしやすい。

だけでなく、事実に基づいた指摘が必要だと痛感。立法例や問題になっている法律の背景をしっかりと勉強して発言できるようになるのが目標!

私:次は根拠を持って発言できるようにになりたいな。
議論が進むにつれ、違和感

課長:論点整理のメモを作ってみようか。
みんなで議論したことを踏まえて、C先輩に教えてもらいながら、論点整理メモを作ったの指示。初めての資料作成、上手いくかな…。

Tuesday

私が局長に説明するの~!?



ちゃんと勉強しておいてよかった…。



昨日は答弁対応でけっこう大変だったんだ~

Friday

答弁書いたの!?

Thursday

困ったら何でも相談してね



全部一人でやろうって気負わなくても大丈夫!

Voices of trainees

この記事は、新人職員や若手職員への取材、令和5年3月に実施したインターンシップでの実習生の声をもとにしたものです。架空の職員の架空の1週間ですが、個々のエピソードは、衆議院法制局の「あるある」かも!?

同期:こっちも色々な仕事を任せてもらってるよ

久しぶりに同期と国会内の食堂でランチ。そっちはどんなことをしているのって聞いたら、昨日は担当法案の答弁対応でバタバタしてたんだって。議員の先生が自分の書いた答弁案を使って答弁しているのを、委員会の場で目の当たりにしてきたみたい。
課が違えば色々な仕事があるんだなあ。

それから、暫く読み込むと、どんな説明の流れだとX議員にポイントが伝わるか、この資料が今後どう使われそうかといった観点から、文言修正の指示をもらう。

課長:焦らず経験を積んでね
正確に、分かりやすく、そして、使いやすく。資料作成一つとっても気を付けることはたくさん。不安そうな私に、課長から「法制局の仕事は経験が大きな力になるから、焦らず一つ一つ経験を積んでいくことが大事だよ」とのお言葉。

私:褒められた!よかった~!
ランチから戻って、論点整理メモを課長にご報告。ざらりと読んで、「欲しかった情報が全部まとまっている」とお褒めの言葉をもらい、ほっと一安心。

よし、来週からの1週間も何事も経験の気持ちで頑張ろう!